
カービィ 伝説を受け継ぐ戦士

kaabii

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カービィ 伝説を受け継ぐ戦士

【NNコード】

N4940Y

【作者名】

kaabii

【あらすじ】

これは星の戦士「カービィ」と星の魔術師の姉弟「リン」と「レン」による、闇の者との戦いや、仲間との生活が語られている。

ある日、カービィは散歩していると1人の女の子に出会い。
彼女の名は「リン」。魔術師だという。

この出会いが…、新な闇との戦いの始まりであった。そして…カービィがリンと会っていた頃…別の空間では、闇の復活の儀が行われ

ていた。

カービィに立ちはだかる新たな戦いとは……！

1話 出会つばかりのなかつた出会ご（前書き）

「んにちはーえーと…、まず最初に…以前更新していた作品がこち
らの//スで消えてしましました。

で…、色々考えた結果……今回、新しいストーリーの小説を乗せよ
うと書いた事になりました。

やはり、グダグダかもしだせませんが…宜しくお願ひします！
ちょっと内容も分かりにくい部分もあると思います。そちら辺は、
バンバン聞いてください。

では……始めます。

1話 出会いははずのなかつた出会い

「」は、宇宙の端にある超平和な星「」にある国「」の王子。

ここは今まで、いくつもの闇の者に侵略されかけましたが、ある人物によつてそれは阻止されてきました。その人物とは……

ある日の曇さがり……丘の上から歩いてくる人影が……

カービイ「ふあ～…今日もいい天気だなあ～…平和つていいなあ～…」

この人物が今まで、ポップスターを救つて来た英雄「カービイ」だ。見た目は幼く、ピンクの球体をしているためとても英雄とは見えないが実はかなり強い。んでもって、大食いでたまに友達を困らせる時もしばしば……

そんな彼が今この丘にいるのは、ただ目的がある訳ではなく散歩のついでだという。

カービイがんぐ…！と背伸びをした時だつた…カービイが見つめる先に誰かいる事に気が付いた。

カービイ「ん…？誰だろ…？」カービイが近づいてみると…カービイと同じ球体で、白い体にピンクの足の女の子が倒れていた。

カービイ「だ…大丈夫！？どうしたの…！？」

カービイはかけよつて起こしたが意識はなかつた。カービイはとりあえず家に運んだ。

カービイはベットにオンナの子を寝かせ、様子を見た。

カービイ「ふう…怪我はなかつたし…起きるのを待とひ…」

カービィが女の子を家に運んで30分……

? 「…………ん…………！」

「…………ここは？」

カービィ「気が付いた…？大丈夫？君、丘の下で倒れてたんだよ。ここは僕の家だよ」カービィは女の子が目を覚ました事に気付き、顔を覗いた。

? 「あ……はい。あの……ありがとうございます」しました私、その……お腹すいちやつて……」少し頬を赤めながら恥ずかしそうに黒い髪の女の子を見てカービィはニコッと笑つて言つ。

カービィ「そつか！じゃあ、ちょっと待つてで……」カービィは台所へ向かうとさき形に切つたりんごを持つて戻つてきた。

カービィ「これ食べて…おいしいよつ！」

? 「あ……ありがとうございます！」いただきます！」パクパク……！」

女の子はりんごを5分程度で食べ終えた。

リン「ありがとうございました！私、リンつていいます。あなたは…………？」

カービィ「僕はカービィー！宜しくね！あと…敬語は使わなくていいよ」

リン「あ…うん…分かつた。ありがとうございます！」

カービィ「お礼なんていいよ…それより…今日は泊まつていつてよ。外は少し暗くなつて來たし…」

リン「じゃあ…お言葉に甘えます」リンとカービィはこのあと、笑いながら1日を終えた。

これが…今回の新たな冒険のきっかけにもなるとは…カービィでも…

予想しなかつただろ？…。

1話 出会いのなかつた出会い（後書き）

はあ……終わりました。

今回は、カービィヒーリンの出会いの話でした。

ほんと……なんかよく分からなくてすみません……」ここまで読んでくれた方は本当にありがとうございます。

何かありましたら、教えてください。

宜しくお願いします。では……また次回お会いしましょー！

2話 置の儀式（前書き）

こんちわーええと……んまあ……グタグタだけど……ひょっと書き方変えたんで、読みやすくなってる……かもです。

そんだけです。では……！

2話 閻の儀式

カービイがレンと話してゐる頃……【ファイナルスター】では……ある儀式が始まつていた。

暗い空間に、カプセルで眠つてゐる丸い球体とそれを囲んでゐる、ダークマター族達…。

ダークゼロ「…………いよいよですか
星の形をしている閻…「ダークゼロ」は不気味に笑いながら白い体をしている者…「ゼロ」に話しかける。

ゼロ「ああ…閻の魔術師…「レン」のお目覚めだ…」ゼロはカプセルに黒い塊を入れながら笑う。

カプセルが黒く点滅し始め、数秒後…突然破裂した。そして……煙が巻き上がる中…煙の中からゼロの元へと歩いてくる影が……。

ゼロ「レンよ……氣分はどうだ?」

レンと読ばれた黒い球体に赤い瞳と足をした者はフツ…と冷たく笑うと…

レン「氣分は……普通。ねえ…、これから僕は何をすればいいの?」
と言つた。

ゼロ「それはダークゼロに聞け…お前の事は奴に頼んでいるからな…」

ゼロはそう言つと、暗闇に消えた。そのかわりにダークゼロがレン

の前に現れた。

ダークゼロ「まず……手始めに星を3つ消していくのだ……それから、奴がいるポップスターへ向かうのだ」
レンは「やうか……」と呟つとワープホールを作った。

レン「星は僕の好きな所でいいの……？」

ダークゼロ「ああ……、ポップスター以外でな……」
レンは「分かった……」と言つとワープホールに消えた。

そして……レンがワープホールに消えてから5分後……ホロビタスターが爆発した……。

ホロビタスターが消える瞬間をゼロは他の部屋で見ていた。
ゼロ「ほお……破壊の力がこんなに強いとは……面白くなつてくるぞ……こつや……！」

レンはこの後、ウルルンスター・フロリアを爆発させた。
レンはフロリアを消すとすぐにファイナルスターに戻つて來た。

レン「終わったよ……。次はポップスターに行つていよいの？」
ダークゼロは「ああ……すぐに向かってくれ！」と呟つた。

レン「……あそこにはねえちゃんがいんのか……まあいや。んじや……、
行つてくるか……！」

レンが言ひ「ねえちゃん」とは…次回、明らかになる！

2話 閻の儀式（後書き）

はあ……、終わりましたよ……；

今回はカービィとリン出なかつたな……まあ、今日は閻の一族がメインだつたって事で……

私、何度も閻一族の存在を忘れちゃうんですけど……今作は頑張つて忘れないようにしたいと思ってます。

では……ここまで読んでくれた皆さま……ありがとうございました！
また……次回お会いしましょうおーーー！

カービィ「次は僕も出るよーーー！」

作者「こひつー裏側から出るんじやないつー。」

3話 まさかの再会!?

ポップスター・プロップランド

カービィは今日もほのぼのとした日を過ごそうとしていた。カービィは今、リック達とサツカーで遊んでいる。

リック「カービィ！ ボールそつちに飛んだぞーーー！」

カービイー任せでえー！！！よーと！リック！しくよー！」
ボールを取るとリックに向かつて蹴るカービイ。

リックはボールを取ろうとしたが相手側のクーに取られた。

クー「渡さんぞお！カイン、ぱすだぞ！」カインに向かつてボールを回すクー。しかし…カインは、

カイン「ええーー！？いきなり回さないで…！」避けてしまった…そして、後ろにいたカービイがボールを取つた。

カービイ「エッヘン！！」
リック「ナイスッ！！カービイ！」

カービィが蹴ったボールは相手側の「ゴールネット」に飛んでいき…ピッヂはあまりの速さに避け、ボールは「ゴール」に入った。

ピッチ「わあ……やつぱリックとカービィは息ぴったりだね……」ハイタツチをするリックとカービィを見ながら呟くピッチ。

そんなカービィ達を見ているのはリンとチュチュ、アドそしてリボンの4人だった。

リン「わあ……カービィチームは強いねえ……」びっくりしながら言うリン。

隣ではリボンが笑いながら……「ほんとだよね……フフッ！」と言つた。

チュチュ「アドはまた絵を描いてるの？」

木の影でキャンバスと睨めっこをしているアドを見ながら問うチュ。

アド「うん……でもねなんか……うまく描けないのよ……。どうしてかな？」

チュチュに問いを返すが、チュチュは「ああ～ね……」と言った。

そんな時だった……来るはずのない者が来たのは……。

ピクッ！　　リン「！？（レン！？）」

突然リンが何かを感じとり空を見上げた。そして……そこには……レンの姿があつた。

リン「レン……！？なの？」　　カービィ「誰…？」

カービィが空にいるレンの気付かずねる。が……レンは返事をしない。

レン「（ねえちゃん…）まあいいや…。オイ、そこのピンク玉！」

カービィ「ピ…ピンク玉！？僕はカービィだよ！ピンク玉じゃないよつー！」

ピンク玉と呼ばれブンスカ怒るカービィ。

だが…レンはそんな様子に気にせずに、闇魔法で作る剣「ダーク・ソード」を出し、剣先をカービィに向けた。そして…
レン「カービィ…僕と戦えつ！」　カービィ「あゅ…急になんなのぞ…？」

レン「断わるんなら……」レンはリックに目をやると剣で出す闇の刃「ダーク・カッター」をリックに放った。
リックは反応が遅れ、避けたが腕を掠つた。

リック「つう…！」　カービィ「リック！？大丈夫！？」
リックにかけよるみんな。リックは「大丈夫だ…！」と言つたが額には汗を出していて、とても痛そうにしていた。

レン「ああ…！断わるんだつたらもつと傷付けてやるよ…！」

カービィはキツ…！とレンを睨み付けた。

カービィ「許さない…！絶対に許さないよつー！」　カービィは手を空に挙げると…

ソードカービィ「コッパー能力　ソード…！」　と叫び、緑の長い帽子を被り剣を持つ姿に変わった。

リン「カービィの姿が…変わった？」

ソードカービィ「君の名前は…何？」剣を構えて問うカービィ。

レン「僕…？僕はレン。そこにいる人の……弟だ」

リン「…？」リボン「えつ…！？ そうなの、リンちゃん！」

リンを見ながら言ったレンの言葉にそこにいた一同はびっくりした。まさか、敵の奴が仲間の身内だとは思わなかつたからだ。

リン「本…当だよ。私は…光の魔術師「リン」…。で…向こうが闇の魔術師「レン」…。

私の弟
よ…」

リンはそつと光魔法で剣「ライト・ソード」を作り、カービイと並んだ。

リン「カービィ…私もやるわっ！」レンにはなるべく光が多い攻撃を当てる…！」

カービイも剣を構えながら「分かつた…！」と返事を返した。そして…、レンVSカービィ＆リンの戦いが始まった。

最初に動いたのはカービイだった…。

カービイ「（まずは…）スピニングソード…！」カービイはレンに向かつて剣を振つたが、避けられた。

だが…レンが避けた場所ではリンが待っていた。

リン「（出来れば…あなたと戦いたくなかったわ…）ライトーン
グ・じゅうひビーム…！」

百の小さじソードビームを作り、レンに当てる。

レンはといひ掠つたが気にしなかつた。

レン「…（少し腕が上がったんだな…ねえちゃん）おかえしだ…！
ブラック・スピンドビーム…！」

リンは技の反動で避ける事が出来なかつた。

リン「しまつた…！？」 ソードカービィ「リン…！…？」

カービィはリンの元へ走る…そして、動けないリンに迫るレンの技…

カービィがリンの元に着いた時だつた…ドガアアアアアアン…！
…すごい爆発が起こつた。

リボン「カービィ…！？」 アド「どうなつたの…！？」 チ

ュチュ「無事だよね…！？」

煙の中から出て来たのは…それはまた次に…分かります。

3話 ものかの再会ー? (後書き)

3話終わりました!

いやー、なんかバトルシーン微妙だったかも…すみません…

では! ここまで読んでくださった皆様!

また次回…宜しくお

願いしますー

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4940y/>

カービィ 伝説を受け継ぐ戦士

2011年11月17日21時38分発行